

交野市議会議員 くぼた 哲さとし

かがやく交野市議会ニュース No.2

発行人：久保田哲 交野市星田4-21-11-421 電話：072-894-0789 発行日：平成24年8月

市民の安全をしっかりと守り、 「仕事ができる市役所」を目指して

冒頭、この度の大雨により被害にあわれた皆様に謹んでお見舞い申し上げます。一日も早い復旧と災害に強い街におきて、市と協力しながら、頑張っ参ります。

さて、ロンドン五輪も終わり、選手の皆さんの活躍に、皆様方も大きな勇気を感じ、感動されたことと思います。このロンドン五輪での選手の一生懸命の姿から「努力は必ず報われる」ということを改めて学びました。一方、私たちの生活に目を向けますと、生産人口の減少、止まらない少子化、経済を支える基盤の弱体化で、先行き不安感が増幅する状況にあります。そんな厳しい情勢にあっても、将来の街の姿を見据え

て、生活者、勤労者の生活を守り、市民の安全をしっかりと守っていくことが政治の要諦だと思います。今まで以上に、政治の役割が大きくなってくる社会になり、市民の皆さんが、安心して任せられる「小さくとも仕事ができる市役所」の実現むけて、頑張っ参りたいと思います。

私も市民の皆さんの温かいご支援により、市議会にお送り頂き、まもなく一年になります。引き続き皆様のお声を市政に届けるために、努力を続けて参ります。

最後になりますが、皆様方には、まだまだ暑い日は続きますが、どうぞお体にはご自愛頂きますようお願い申し上げます。



交野市議会議員

さとし

くぼた 哲

プロフィール

昭和50年1月：西宮市生まれ
平成10年3月：近畿大学法学部 卒業
平成12年8月：平野博文 衆議院議員 秘書（10年6カ月）
平成23年9月：交野市議会議員に初当選
都市環境福祉常任委員会
副委員長に就任

いじめや教育問題に全力で取り組む



文部科学大臣
平野 博文

未来を担う子どもの生命は非常に大切であり、なんとしても守らなければなりません。私は、いじめの悲劇を二度と発生させないよう全力で子ども達の生命を守ります。いじめは決して許されませんが、どんな学校でもどの子どもにも起こりうるものです。大切なのは、兆候をいち早く把握し、迅速に対応することです。いじめ問題の取り組みの基本は「早期発見・早期対応」であり、実態把握が極めて重要です。文部科学省では、『24時間いじめ相談ダイヤル⇒0570-0-

78310（なやみ言おう）』を開設していますが、7月初旬からは相談件数が大きく倍増しています。このことは、顕在化しなかったいじめが表面に出て「誰かに相談して聞いてもらえばいいんだ」という認識に変わってきたのだと思っています。8月中には義務教育課程にある全国の小学校、中学校でいじめの総点検を行います。文部科学省も、学校関係者と連携して積極的にこの問題に取り組んで参りますので、皆様のご理解とご協力をよろしくお願ひします。

6月議会で一般質問を行う

都市整備について

1 市道の補修状況について

質問

その「基準」に満たない道路の補修、つまりは、わずかな箇所での補修などについては、明確な補修を行う際の「基準」はあるのですか。

答弁

職員による補修が可能かどうかはひとつの基準となります。市役所にある資機材で対応可能な損傷については、将来、工事が必要な状態になる可能性があることから、できるだけ早期に発見し路線全体での寿命を延ばすことを目的に、補修作業を実施しております。それ以上の規模になると業者による施工が必要となります。

質問

一般的に市民の皆さんからの相談で、補修の相談を受けた際、すぐに対応できない場合、どのように説明されておられますか。

答弁

現場確認の結果、緊急性について低いと判断された場合、苦情主または要望主の方に損傷の状況等を説明させていただき、また、予算に限りがあり、市内の同様の損傷についても優劣をつけざるを得ないため、すぐに対応できないことをご納得いただくようにしております。

質問

取り組んでいる事業の優先順位を、きちんと市民の皆さんに伝え、そのすべてが理解を得られる状態ではないにしても、市民の方へのその説明の方法や具体的な説明も含めて、何か方法はとられていますか。

答弁

舗装については、平成21年度実施の「緊急雇用創出基金事業 市道現況実態調査委託業務」により作成した道路舗装台帳に基づき実施していることは説明させていただいております。ただし、各道路の利用状況や損傷の度合いにより、どうしてもケース・バイ・ケースの判断が伴うため、全てに対して一般的な基準をもって説明を行うことは非常に困難であると考えております。我々としましても、基準化・明文化できることは非常に理想的ではありますが、苦情主・要望主の方と直接お話をさせていただき、それぞれの状況についてご理解いただけるよう努める以外に方法を見出せておりません。

質問

市民に道路補修の現状について、その情報を広く開示し、その理解を求め、また、そのことで、新たな情報を収集し、それを補修情報に活かしていく。そんな情報提供を旨とし、市民の方と向き合うことは、お考えではありませんか。

答弁

平成21年度実施の「緊急雇用創出基金事業 市道現況実態調査委託業務」により作成した道路舗装台帳については、管理者として必要な指標のひとつとして作成をしました。したがって、市民の皆さんにはご理解いただきにくい内容となっております。舗装の評価については経年変化もあることから概ね5年程度経過時点で更新作業を考えております。その時点において、市民の皆さんにもご理解いただきやすい、または、市民の皆さん向けの資料の作成などを検討していきたいと考えております。



▲劣化した道路

◀市道の状況を視察する久保田議員

2/ 公共交通政策について

質問

「地域公共交通総合連携計画」について、質問いたします。
市町村は、関係する公共交通の事業者や関係機関そして利用者などで構成する協議会を設けて「地域公共交通総合連携計画」を策定すると、国の補助制度が受けられるとのことですが、どのような補助が受けられるのか、もう少し詳しく教えてください。

答弁

「地域公共交通総合連携計画」の策定を促進させ、同計画に基づく事業化を図るため「地域公共交通活性化・再生総合事業」が設けられております。

この事業が適用されると、「地域公共交通総合連携計画」の策定に要する経費に対する補助、そして計画策定後、協議会として実施する事業の経費に対する補助が受けられるこ



とになります。

実施事業の具体的な事例といたしましては、鉄道・バスの増便やダイヤ変更などの実証運行、バスの車両購入、バスの待合環境整備などの活用がございます。

国からの補助につきましては、実証運行及び実証運行以外の事業それぞれの経費に対して2分の1が補助されます。

教育行政について

1/ 学校トイレの整備について

質問

トイレ整備については優先課題として考えていただいています。整備を実施する場合、どれぐらいの事業費用となるのでしょうか。

答弁

洋式化などのトイレ改修には、これまでの実績を基に1校あたり3千万円から5千万円の経費を要すると以前の答弁で申し上げたところですが、今後におきましては、文部科学省が示しております公立学校施設整備事業の中の「大規模改造事業」の補助基準を考慮しつつ、市全体の財政状況も勘案したなかで、実現可能性のある方法を考えていく必要があります。この検討を今後行っていく予定でございます。

質問

学校トイレの洋式化の件はわかりましたが、学校を回りますと他にも補修等必要なものがあると思われませんが、それらの補修・改修についてはどう考えられているのか。

答弁

現在まで、学校ICT機器設置や、エアコン設置、耐震化工事など、事業内容により、一部国の補助金も活用しつつも連続して大きな予算投入を必要とする事業を行って参りました。当然老朽化対応などを行っていく必要がございます。学校施設改善については毎年各学校との間で施設改善ヒアリングを行っており、これも参考に優先順位を考えた対応をしていこうと考えております。



▲小学校のトイレの現状

2/ 教職員の多忙化解消についての質問

質問

私は、先日、市内14の小中学校を見学させて頂きました。その授業風景、特別教室の空調の問題、トイレの問題など、現場をくまなく見学させて頂きました。そこで、教職員を取り巻く状況は、様々な対応に追われて、その業務は

多様化しているようです。まずは、教職員の方の年齢構造について、伺います。また、交野市では、「支援教育支援員」を派遣するなど、学校のニーズに応えるべく対応されているとのこと。全体として、そのような方は何名在籍されているのですか。

答 弁

ここ数年、団塊の世代の大量退職に伴い、毎年、多くの新規採用者が配置されてきましたことから、今年度の小・中学校の教職員の年齢構成につきましては、小学校では30歳以下の教職員が約34%、50歳以上の教職員が19%、中学校では30歳以下の教職員が約33%、50歳以上の教職員が33%となっており、小・中学校で多少の違いはございますが、いずれにしてもミドルリーダー層が少なく、いわゆるダンベル型の年齢構造となっております。なお、教員の平均年齢は、小学校は39.2歳、中学校では40.8歳となっております。

次に市教育委員会が行っている人的支援についてですが、現在、支援教育支援員は小学校8校に8名、中学校2校に2名を、生徒指導支援者は小学校3校に3名、中学校も3校に3名を、学習支援員は小学校2校に2名、中学校1校に1名を、理科支援員につきましては小学校に1名を派遣しています。

これら支援員は、学期毎に学校のニーズに応じて派遣校や人数を精査しています。

質 問

では、一般論としての「やりがい」について、伺います。給料や、労働条件などによって生じる「外的な働きがい」と、内から湧き出る「内的なやりがい」を比較するならば、教職員の方については、どのようにお考えですか。

答 弁

昨年度から、大阪の教育は大きな変換期を迎えています。給与削減はもちろんのこと様々な教育関係の条例が施行されています。

例えば、昨年度の大阪府教員採用試験では、合格者の内13.4%が採用を辞退したことや、本年度は24年度に比べ志願者数が1355人減少していること等は、これらの影響が指摘されているところです。

また、教員の仕事は、翌日の授業の準備はもちろんのこと、生徒指導やクラブ指導、保護者対応等土日にかかわらず多くの時間を費やしており、10のうち9はしんどいことと言っても過言ではないというのが現状です。

しかしながら、こういった中で、子どもたちが目を輝かす瞬間や、子どもと保護者と共に成長できたときや変化に立ちあえたとき、子どものすばらしさに感動し、本当に先生をやってよかったとやりがいを感じます。

**質 問**

現在の教育現場は、教職員の方の「外的なやりがい」は低いものの、「内的なやりがい」に依存している状態ではないでしょうか。年齢が若い先生を中心に、このままでは、熱意を持った教員ほど、疲弊してしまうことが懸念されます。様々な取り組みで、多忙化解消の取り組みは、具体的にどのような取り組みを予定されていますか。

答 弁

教職員にとりましては、単に時間的な多忙化による負担だけでなく、職務上の精神的な負担があり、双方の解消が必要となります。

時間的な多忙化の解消に向けては、会議の精選や校務分掌の工夫改善、いわゆる組織としてのスリム化を図るなどを進めております。

また、各種文書のデータベースを作成しデータの共有化を図るなど、事務の効率化の取り組みも進めております。

次に、精神的な負担の軽減につきましては、生徒指導や保護者対応など、個人で抱え込むことのないように、組織で対応するなど事案対応の支援体制の構築に努めております。

また、経験の浅い教職員が急増しておりますので、外部の研修に参加するだけでなく、校内人事におきましても、経験豊かな教員と配置するなどし、日常の仕事を通じて育成を図る、OJTの推進に努めているところです。

今後も、望ましい人間関係づくりや相談しやすい雰囲気づくりに努めるなど、働きやすい職場の環境づくりに取り組んで参りたいと考えております。

ご意見・ご要望や市政相談は
お気軽に **くぼた 哲** までお寄せください。

自宅 〒576-0016 交野市星田4-21-11-421

電話&FAX (072) 894-0789 メールアドレス s-kubota@s-kubota.jp

